

## 令和2年度 キッズハウスよいちにおける自己評価結果

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。これに基づきキッズハウスよいちの保育の質の向上を図る為に自己評価を実施しました。保育園としての自己評価について、評価の項目、視点、方法及び評価結果を下記のとおり公表し、評価の結果を踏まえ今後の保育内容の充実につなげていきたいと考えています。尚、評価はA、B、C、Dの4段階評価とします。

A:充分達成されている B:達成されている C:取り組んでいるが成果が充分でない D:取り組みが不十分							
項目	内容		評価				総合評価
第1章 総則 教育・保育の基本			A	B	C	D	
基本 教育・ 保育の	1	園の保育目標、保育方針を理解している	100	0	0	0	A
	2	「保育指針」を読み、その内容を理解している	100	0	0	0	A
	3	乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解している	100	0	0	0	A
	4	乳幼児期の教育及び保育で、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われることを理解している	100	0	0	0	A
	5	乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解している	100	0	0	0	A
教育 及び 配慮 の	6	一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して保育を展開している	100	0	0	0	A
	7	子どもとの温かなやり取りやすきんshipを、常に心がけている	100	0	0	0	A
	8	子ども一人一人に、わかりやすい温かな言葉で、おだやかに話しかけている	100	0	0	0	A
	9	「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不用意に用いないようにしている	50	50	0	0	B
	10	「できない」「やって」「いや」などと言ってくるとき、その都度気持ちを受け止めて対応している	100	0	0	0	A
指導 計画 作成 と 評価	11	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている	100	0	0	0	A
	12	指導計画や記録には、いつも養護面の配慮が記載されている	100	0	0	0	A
	13	指導計画に基づいて、環境を構成している	60	40	0	0	B
	14	子どもの姿を、家庭での生活を踏まえ理解している	84	16	0	0	A
	15	子どもの興味・関心や意欲に合わせて活動ができるように、指導計画を作成している	100	0	0	0	A
	16	自分の保育について反省し・評価し、それを次の指導計画の作成に生かしている	100	0	0	0	A
	17	子どもの活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に指導計画に書き込まれている	100	0	0	0	A
	18	日々の保育記録が、子どもの発達援助に必要であることを知っている	100	0	0	0	A
子 ども の 発 達	19	日々の保育記録を、子ども一人一人の発達理解に生かしている	100	0	0	0	A
	20	子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度をを身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している	100	0	0	0	A
	21	子どもと生活や遊びを共にする中で、一人一人の心身の状態を把握している	100	0	0	0	A
	22	子どもは様々な環境との相互作用により発達していくことを理解している	100	0	0	0	A
	23	子どもが興味や関心を示し、主体的に関わる環境を用意している	57	43	0	0	B
	24	子どもが、興味や関心をもったものに対して自分から関わろうとしている姿を認めたり励ましたりしている	100	0	0	0	A

年度初めの園内研修で、保育園における法令、保育所保育指針、園の保育理念、保育方針等について確認した。保育課程を理解した上で具現化した年間計画を作成し、子ども一人一人に合った個別計画に基づく保育を実践することが出来た。子どもの育ちの理解や指導計画に基づいた環境構成に課題がみられるので、定期的に園内研修を行い、計画が実践につながるよう取り組んでいきたい。

## 第2章 「ねらい」及び「内容」

乳 児 保 育 に 関 わ る 内 容	25	温かい触れ合いのなかで、心と体の発達を促すように努めている	100	0	0	0	A
	26	子どもが自ら体を動かす機会を十分に確保している	100	0	0	0	A
	27	一人一人の子どもに、いつでもやさしく対応するように努めている	100	0	0	0	A
	28	子どもが自分の気持ちを表したときには、その気持ちを理解し受け止めようとしている	100	0	0	0	A
	29	つまむ、たたく、ひっぱるなど、子どもの感覚の発達を促すような玩具を用意している	75	25	0	0	B
	30	子どもの探索意欲を満たすような活動を取り入れている	88	12	0	0	A
1 歳 以 上 3 歳 未 満 児 の 保 育 に 関 する ね ら い 及 び 内 容	31	安定感をもって生活できるように受容している	100	0	0	0	A
	32	体を動かす機会を十分に確保し、子どもが自分から動かそうとする意欲が育つようにしている	100	0	0	0	A
	33	食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔などは子ども一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で子どもが自分で行おうとする気持ちを尊重して対応している	100	0	0	0	A
	34	基本的な生活習慣の形成にあたっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行っている	75	25	0	0	B
	35	子どもの気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっている	100	0	0	0	A
	36	思い通りにいかないときなど、子どもの気持ちを受け止めるようにしている	100	0	0	0	A
	37	玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それを使った遊びを楽しめるような環境を用意している	100	0	0	0	A
	38	感覚の発達が促されるように、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切な玩具などを選んでいく	71	29	0	0	B
	39	自分で言葉を使おうとしたときに、応答的な関わりをしたり話しかけたり、間違っても、ありのまま受け止めたりしている	100	0	0	0	A
	40	「おはよう」など心のこもった日常の挨拶をしている	100	0	0	0	A
	41	保育者などを仲立ちとして、生活や遊びのなかで友だちとの言葉のやり取りを楽しめるようにしている	100	0	0	0	A
	42	「取ったらダメ」「貸してあげなさい」など単に行動を制止して子どもの気持ちを抑えるのではなく、「どうしたの?」「困ったね」など思いを察し、共感して受け止めている	63	37	0	0	B
	43	歌や簡単な手遊びに慣れ親しみ口ずさんだり、歌に合わせて楽しんで体を動かすことができるようにしている	100	0	0	0	A
	44	水、砂、土、紙、粘土など、様々な素材に触れることができるよう、環境を整えている	100	0	0	0	A
事 配 項 慮	45	一人一人の子どもが、眠いときに眠ることができる場所を用意している	100	0	0	0	A
	46	リズムに合わせて手足や体を動かせるように、環境に配慮している	88	12	0	0	A

保育計画のねらいの立て方や活動内容等、園内研修で職員が意見を出し合い話し合いを重ねることで、一人一人の保育士が自信持って子どもの思いに寄り添い保育を展開することが出来ていると感じる。生活や遊びの中で、子どもの思いを大切に受け止めることは出来ているが、危険を予測して子どもの行動を制止してしまう項目にB評価をつける職員が多いので、保育環境を振り返りながら保育士の声のかけ方や対応の仕方等について、今後の課題として取り組んでいきたい。また、子ども達が経験したことや興味のある事をイメージを広げて表現出来るような援助がまだ充分出来ていないと感じるので、園内で公開保育を実践したり資料を持ち寄り学び合う等、保育士自身が遊びのイメージが広がるような研修の進め方を考えていきたいと思う。

### 第3章 健康及び安全

健康 支 援	47	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人一人の保育に生かしている	100	0	0	0	A
	48	衣服の着脱や食事などについて、子ども一人で見守りながら援助をしている	100	0	0	0	A
	49	園での活動の様子や発達の状況などを、保護者に伝えている	80	20	0	0	A
食 育	50	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように配慮している	100	0	0	0	A
	51	その日の給食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせている	100	0	0	0	A
	52	子どもの体調に応じて、食事の量を調節するなどの配慮をしている	100	0	0	0	A
環 境	53	室内の温度や湿度、換気をチェックしている	100	0	0	0	A
	54	保護者の気持ちに配慮し、送迎時に安心できるような関わりをもてるよう心がけている	100	0	0	0	A
の 災 備 害 え へ	55	地震、洪水などの際の、園から避難場所への避難経路を把握している	100	0	0	0	A
	56	避難訓練を振り返り、うまくいった点や反省点を記録に残している	100	0	0	0	A

健康及び安全については、全職員が自信を持って取り組んでいる。経験の浅い職員に対して保護者へ発達の状況の伝え方をアドバイスし合い、自信を持って対応出来るよう援助している。衣服の着脱等子どもが出来ない時には、大人の思いで手伝うのではなく、子どもの思いを聞きながら援助することを大切にしている。

### 第4章 子育て支援

保 護 者 に 支 援 す る	57	子どもについて、保育について、家庭での様子について共通理解を得るよう努めている	100	0	0	0	A
	58	送迎の際に、保護者と言葉を交わしたり、連絡帳で情報を交換したりするようになっている	100	0	0	0	A
	59	生活に必要な習慣が身につくよう、家庭との連携に努めている	100	0	0	0	A
	60	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	100	0	0	0	A
	61	保護者からの相談内容をなどを、自分一人の問題にしないで園全体で受け止めようとしている	100	0	0	0	A
地 域 に お け る 支 援	62	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	100	0	0	0	A
	63	地域における子育て支援のための園の取り組みを理解している	100	0	0	0	A

保育士が子ども達と関わって遊ぶ楽しさをクラス便りや連絡ノート、送迎時の口頭で伝える事が出来た。また保護者支援の下、保護者に寄り添うことを大切にすることが出来たと思う。保護者の子育て方針を把握し、各家庭に合った援助を心がけていきたいと思う。

## 第5章 職員の資質向上

職員の 資質 向上	64	他の人の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	75	25	0	0	B
	65	「保育指針」に、園の自己評価が努力義務などとして位置づけられているのを知っている	100	0	0	0	A
	66	自己評価など、自分の保育を定期的に振り返る機会をもっている	100	0	0	0	A
	67	自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決のために計画的に自己研鑽している	75	25	0	0	B
	68	職務上、知り得たプライバシーに関する情報秘密を守っている	100	0	0	0	A
	69	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をしている	100	0	0	0	A
	70	園に関することについて、みだりにまたは不正確なままに他へ話したりしない	100	0	0	0	A
	71	クラス的环境構成などについてお互いに素直に意見交換している	100	0	0	0	A
	72	子どもの発達と内面理解についてなど保育に関わる様々な知識を習得したり技能の向上に努めている	100	0	0	0	A
	73	趣味・人とのかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている	63	37	0	0	B
74	子どもと会話をしたり、遊んだりすることが好きである	100	0	0	0	A	

今年度は感染拡大防止の為園外研修に参加することが出来なかったが、園内研修で資料を持ち寄ったり自己評価で保育の振り返りを通して常に保育の課題を見つける意識を持ち、話し合いを積み重ねることで改善点を探ることが出来た。今後も定期的に園内研修の進め方を工夫し、話し合いを深め、保育を振り返りながら確認し合うようにしていきたいと思う。園内研修に参加することが出来ないパート職員に研修内容を回覧で必ず確認してもらい、職員全員で内容を共有出来るようにしている。今後も同じ思いで保育が提供できるよう細やかに伝える工夫をしていきたいと思う。

総合評価

毎月実施している園内研修を通して保育内容や進め方の確認・見直しを行い、園で目指している保育目標や方針を常に課題を意識して見つけ、改善に取り組むことが出来た。それをパート職員にも回覧で見てもらったり口頭で伝えたりしながら全職員で内容を共有する事が出来たと思う。今年度は保育所保育指針の理解を深めたり資料を見て学ぼうとする姿勢をもつ等、より良い保育を提供できるよう意識して園内研修に取り組む事が出来たと感じる。日々子どもの興味や発達を捉え、期ごとに遊び環境の計画を職員が意見を交換し合いながら立案し、個々に寄り添う声かけや援助を大切に保育を進めてきたが、成長を促すような環境を整える事にBの評価をする職員が多かった。今後も、子どもの遊びが充実する環境を課題として取り組んでいきたい。また子どもの行動を制止してしまう言葉を不用意に用いてしまう項目については次年度の重点課題と捉え、園内研修で定期的に振り返り評価が上がるよう努力をしていきたい。今後も子どもの思いに寄り添った保育を心がけ、職員一人一人が課題を共通認識し、専門性を高めながらより質の高い保育を目指していきたいと思う。